

埋設設備を3D表示

ARをインフラメンテに

タブレットで共有も可能

三菱電機

三菱電機は、AR(拡張現実)を用いた公共インフラのメンテナンス技術を開発した。同技術では、タブレット端末のカメラでマンホールなどを撮影すると、土中に埋まっている埋設設備のイメージを3Dで表示する。タブレット端末の画像を複数工事担当者で共有することで、設備維持管理を効率化することができる。

同技術では、撮影に用いるタブレット端末の大きな自己位置をGPSやジャイロなどのセンサーで取得する。埋設設備の地理情報システムから、撮影位置の埋設設備データを取得し、埋設され、目に見えない設備の3D

構造情報を表示することができる。深さ、緯度、経度などの奥行のある情報を表示する効果だけでなく、実際にイメージ映像を出さず、配管の間隔を防ぐことにもつながる。

手間は課題となっており、上下水道の設計図は約4割がデータ化されており、設計図のデータ化が今後進めば、同技術をさらに広く用いることができるようになる。同技術は、マンホールのみならず、下水処理設備などの点検にも応用可能。目視が難しい設備情報を得る際に活用することができるとしている。



日本コンサルティング、エンジニア協会(AJCE)内村好会長は2月27日、第3回海外プロジェクトの契約管理者育成セミナーを、東京・渋谷区のジェクトオリエンタルコンサルタン

概要並びに契約管理の事例について紹介し、海外プロジェクトにおける契約約款や契約管理の認識を深めてもらうことを目的に開催している。冒頭、内村会長は「写真は「セミナー」を通じてFIDIC契約約款の

今後、現場での実証実験を進めた後、16年度以降に実用化する予定。利用者への声をもちに操作性などの調整を進め、実用化に向けた準備を行う。

「未来へつなぐ」テーマに

全国女性建築士連絡協議会開く

士会連合会



タブレット端末の表示画面

見えない埋設設備の位置を推定する必要があった。このため、近年はマンホールなどの地上露出部分にQRコードを付したマーカーを貼り付け、AR技術により

日本建築士会連合会女性委員会(永井香織委員長)は2月27、28日の2日間、東京・港区の建築会館ホールで「未来へつなぐ」をテーマにした第24回全国女性建築士連絡協議会II写真IIを行い、約300人の女性建築士が参加した。冒頭、永井委員長は「今回の基調講演はコミュニ



ティの専門家HITOTOWAの荒昌史代表取締役にお願した。建物などのサポートについて学んでもらいたい。そして今日学んだことを各地に持ち帰って欲しい。また、福島県女性建築士の復興への取組みや活動をまとめた冊子を発売する。被災地での取り組みを全国のの人に知ってもらうため、売上は福島県に寄付する。冊子の販売は今回だけでなく次回も連絡会でも行う」と挨拶した。

初の41か所に選定証

重点「道の駅」で授与式

国交省



国土交通省は2月26日、東京・千代田区の砂防会館で重点「道の駅」選定授与式を執り行い、太田昭宏国土交通大臣から、全国モデル「道の駅」6か所、重点「道の駅」35か所に選定証が手渡された。授与式は「道の駅は地域と来訪者が交わる接点であり、観光のゲートウェイとなる

張ろうと思つ」と笑顔を見せる。担当は、国内だけでなく、「台湾新幹線にも携わった」という。興和化成の保有技術の強みの一つである、

世界最高レベル 電気集塵装置が稼働

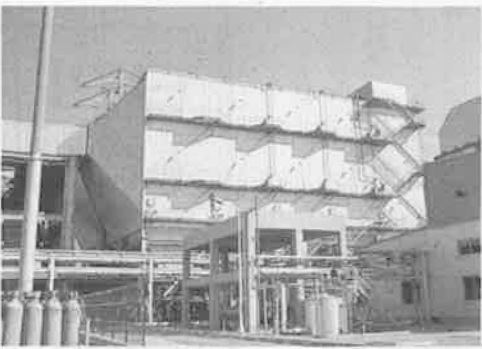
トルコの石炭火力発電所向け

日立プラント
コンストラクション

日立プラントコンストラクションは、トルコ共和国の発電事業者のIZDEMIR社から、同国西部のイズミールにある350MW級の火力発電所「IZDEMIR発電所」用の電気集塵装置2基を受注・納入し、本格稼働を開始した。

から排出されるガス中のダストを除去するもので、独自技術である移動電極型電気集塵装置「MEEP」を用いることで、排出するガス中のダスト濃度を10ppm以下にするという世界最高レベルの性能を保有する仕様となっている。欧州および中東での同装置

ダストを掻き落とすことにより、従来の固定電極型電気集塵装置では難しかった微細なダストや高抵抗ダストも剥離する。また、集塵効率が高いことから固定電極型電気集塵装置と比べて集塵極と放電極の数を減らすことができるため、装置の大幅な小型化も実現した。同国は、政府が23年までに世界10位の経済大国になるという目標を掲げ、経済成長を続けており、それに伴う電力需要の拡大に向け23年までに総発電設備容量を現状の2倍以上となる125ギワットに増強する計画。同国の総発電設備容量のうち、石炭火力発電は現在約3割を占めており、今後とも基幹電源としての役割が期



稼働した電気集塵装置の概観

稼働は日立プラントコンストラクションでは初の「MEEP」の特徴は、ダストを捕集する集塵極を移動させながらブラシで

の受注・稼働は日立プラントコンストラクションでは初の「MEEP」の特徴は、ダストを捕集する集塵極を移動させながらブラシで

期待されているが、同時に環境対策も求められ、石炭火力発電所に対するダスト排出規制が強化されている。こうした背景からIZDEMIR社は、イズミールの石炭火力発電所向けに日立プラントコンストラクションの電気集塵装置を導入した。同装置は、構成を通常の電気集塵装置よりも1区多い4区タイプ(集塵装置を4段に構成する方式)とする。性能向上しており、前段として固定電極型電気集塵装置3区と、後段として日立プラントコンストラクションの独自技術である移動電極型電気集塵装置「MEEP」1区構成としている。

興和化成

営業本部営業三部営業一課長

鳥居哲也氏



東鉄工業は13年3月、興和化成をM&Aによってグループ会社化した。興和化成は、鉄道・軌道関連工事には不可欠な軌道材料のレール締結装置や、樹脂製品などの製造販売に強力な技術力、供給力、営業力を持つ。これらを生かし、東鉄工業は、高品質な軌道材料の調達ルートを

の強化を図っている。鳥居氏は、これまでに鉄道建設・運輸施設整備支援機構を担当。軌道のスラブ板や枕木に用いるレール締結装置、軌道の高低調整・補修等に用いられる樹脂「ポリモリタル」などの販売を通じて、「長年にわたり整備新幹線に携

り、部品の製造、施工まで一貫して、仕事のモチベーションを高めること

鉄道の安全、足元から支える

わってきた。その1つは、「多くの実績を有し金沢間の開業が近づいており、CMなどを用いることができるため、東鉄工業を通じて



る。また、土木、建築適用範囲が期待できている。また、みとして、担当するエ



統合優良賞 報告書